

## 失われた命を悼む



▲2012（平成24）年3月11日 ベイサイドアリーナで開かれた東日本大震災南三陸町追悼式。 撮影 浅田政志  
大きな祭壇に手を合わせる小学生たち。先生方が声をかけるまで子どもたちは手を合わせ続けていた。

2011（平成23）年3月11日に人生を奪われた人が、そばにいない悲しみは癒えることもなく、何年が過ぎても涙が枯れることもない。

11日の月命日に、人々が集まる度に、住民たちは黙祷を捧げ、犠牲になった人々の死を悼んできた。明日を生きるはずだった人々を思い、彼らに恥じない生き方をしよう、震災前よりさらにいい町をつくろうと、幾度となく彼らの前に誓ってきた。

私たちは、隣人たちと事ある毎にその悲しみを共有しながら、復興の歩みを一步一步進めて来た。

私たちの心の中に、あの日旅立った人たちは今もなお生きている。そして、彼らは日々を懸命に生きる私たちに叱咤激励し支え続けている。

私たちは今日も、死者と共に生きている。



▲2011（平成23）年4月11日 町役場仮設庁舎の前に  
整列して黙祷を捧げる役場職員たち。



▲2011（平成23）年8月11日 袖浜で行われた追悼集会  
「南三陸の海に思いを届けよう」で、これまで近づくことが  
怖かった浜辺に人々が集まった。